

浸水被害を防ぐ

上下水道局

問 下水建設課 ☎ 25-3423

～ 下水道施設整備の取り組み ～

浸水被害は、雨水の放流先である海の潮位が高いときや、地形が平坦で雨水の流れが悪い場所、想定した雨量を上回る雨が降った場合などに起こります。

市では、潮位が高いときでも雨水を速やかに海に放流できる「雨水ポンプ場」や、地下に一時的に雨水を貯める「地下貯留施設」の建設、雨水の流れをよくするために雨水幹線の「勾配修正」などの対策をしています。



▲高潮時でも排水するための雨水ポンプ場
【名田雨水ポンプ場】



▲雨水を溜める地下貯留施設
【広東地区雨水貯留施設の内部】
(幅・高さ:6.5m、長さ:106m)



▲川底の勾配修正工事【広雨水1号幹線】

災害への備えを お願いします

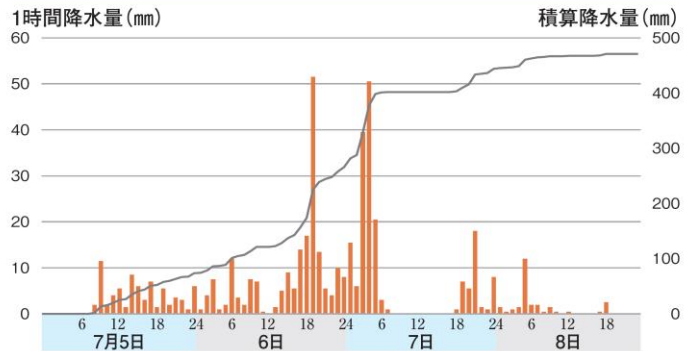


◀下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

市では、少しでも減災につながるように事業を進めていますが、近年は雨の降り方がさまざまで、平成30年7月豪雨のように、長時間大量の雨が降るケースや、短時間でも大量の雨が集中して降る場合には、対応しきれないこともあります。

今後も、気象情報や防災情報に注意し、災害に備えてください。

平成30年7月豪雨における降水量の推移



(観測場所: 呉特別地域気象観測所)